

①<地域コミュニティの拠点としての学校づくり>

地域の教育力を生かした学校をつくろう

【キーワード】 地域連携 教育計画立案

【事例：地域人材の活用】

1 ねらい

教育計画立案に向けて、職員間で地域の人的・物的資源について情報交換を図る。

2 内容

月	内 容	担 当
5	「地域の方々から教わろう」というねらいのもと「地域ふれあい講座（仮称）」の企画・立案を行う。	係
6	講座担当講師と担当教諭との間で、意見交換・講座準備を行う。	全員
7	地域の方を学校に招いて様々な講座を開く。	全員
7	地域の方と教職員による情報交換を行う。生徒の様子、地域の方々のご意見、学校支援ボランティアの意志確認などについて話し合う。	全員 (学年)
7	校内において教職員間で情報交換を行う。(※研修会)	教務主任
8	地域人材を活用した教育カリキュラムづくりなど。	各学年 教科会

3 方法

(1) 講座は、地域の人材、地域の産業・文化に関わる内容を設定する。

【講座 一例】

和楽器	水墨画	太鼓	切り絵
おやき作り	茶道	シルククラフト	押し花
写真	籐細工	体幹トレーニング	ニュースポーツ

(2) 講座担当教諭は講座担当講師と、体験内容、体験希望人数、場所、物品の準備などの打ち合わせを行う。体験内容に関わって学校としての要望も伝える。

4 校内研修の様子

手順① 各学年、各教科から教育計画の中で必要となる人材、物的資源の要望を出す。

手順② 各講座担当教員から講座の様子、生徒の取り組みの様子の報告を行う。

手順③ 来年度の教育計画づくりについて話し合う。(例：学年単位で総合的な学習の時間に関わる講師の選定。教科単位で教科学習に活かせる人材選定)

研修後のまとめ

○赴任したばかりで地域の産業や文化についてよく分からずにいたが、各講座の様子を知ることができ、今後の教科の授業、総合的な学習の時間で活用できそうな人材や学習活動が明らかになりました。今後の教育計画の中に組み込んでいけそうな人材の候補も見つけられました。(基礎形成期・伸長期・充実期の教員)

➤セルフチェック①-6

「信州型コミュニティースクール」の運用を強化しよう
【キーワード】 学校と地域住民の協働 学校支援ボランティア

【事例：信州型コミュニティースクールの運用】

1 ねらい

「信州型コミュニティースクール」の運用を強化していくために種々の先行事例から情報を得て、自校では、具体的にどこから取り組み始められるか、各種プロジェクトチームを作り、協議し合う。

2 内容

時期	内 容	担 当
1 学期	信州型コミュニティースクール実践事例読み合わせ	教務（係）
2 学期前半	プロジェクトチーム立ち上げ 骨子作り	プロジェク トリーダー
2 学期後半	プロジェクトチームからの報告	
3 学期	来年度運用強化に向けての準備	教務（係）

3 方法

(1)信州型コミュニティースクール実践事例の読み合わせを行う。

(※資料：生涯学習プログラムガイド集／文化財・生涯学習課)

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/cs.html>

(2)プロジェクトチームを決め、骨子を作る。

例①学校運営協議会（運営委員会）チーム

組織的に活動している学校支援ボランティアの皆さんを組織化する。（運営委員の人選）理念・目標づくり。年間計画の作成。

例②学校施設開放チーム

学校という場所を地域の方も、子どもとともに学ぶ場所にする方策を考える。生涯学習社会実現の視点、社会教育の視点から。

例③学校支援ボランティア発掘チーム

学校内でどのような内容の支援ボランティアが必要かを決め出す。地域への募集方法を考える。コーディネーター（担当者）を探す。

(3)各プロジェクトチームからの報告と検討を行う。

4 校内研修の様子

「生涯学習プログラムガイド集」に多くの実践例があり、大変参考になった。その中から、自校ならば、どの取り組みならば実現可能かという視点で話し合った。今、現在機能しているボランティアグループ（読み聞かせの団体など）の他に、どんな地域人材が活用できそうか、情報を出し合った。

研修後のまとめ

○信州型コミュニティースクールについて、具体的にどのような取り組みが行われているかが分かりました。取り組みやすいところから始め、じっくりと取り組んでいくことが大切だと感じました。地域も学校も互恵的な関係を保つことが、取り組みを充実させるためのポイントだと感じました。（伸長期の教員）

➤セルフチェック①－5